

寶月 誠 教授
略歴 著作目録

寶月 誠 教授

略歴

1941年 9 月26日 滋賀県彦根市で生まれる

1966年 3 月 京都大学教育学部（教育社会学コース）卒業

1966年 4 月 私立三重高等学校教諭

1967年 4 月 京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻入学

1969年 3 月 京都大学大学院文学研究科修士課程社会専攻修了

1969年 4 月 大阪府立大学教養部助手

1974年 4 月 大阪府立大学教養部講師

1974年 9 月 コネチカット大学客員研究員（1974年12月まで）

1978年12月 大阪府立大学総合科学部助教授（1980年 3 月まで）

1980年 4 月 京都大学文学部助教授

1987年 1 月 京都大学文学部教授

1990年11月 文学博士（京都大学）

1992年 8 月 カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員（1993年 6 月まで）

1996年 4 月 京都大学大学院文学研究科教授

2005年 3 月 京都大学定年退職

〈所属学会〉

日本社会学会会員・関西社会学会会員・犯罪社会学会会員・社会病理学会会員

日本社会学史学会会員・American Sociological Association会員

寶月 誠 教授

著作目録

(著書)

- 1.『逸脱の社会学』（大村英昭氏との共著）新曜社，1979年 4 月
- 2.『社会学のあゆみ』（新睦人・大村英昭・中野正大・中野秀一郎氏との共著）有斐閣，1979年 4 月
- 3.『暴力の社会学』世界思想社，1980年 1 月
- 4.『日常世界の虚と実』（石川実・大村英昭・中野正大氏との共著）有斐閣，1983年 5 月
- 5.『薬害の社会学』（編著）世界思想社，1986年 1 月
- 6.『社会病理』リーディングス日本の社会学第13巻（大村英昭・星野周弘との共編）東京大学出版会，1989年10月
- 7.『社会調査』（中道實・田中滋・中野正大氏との共著）有斐閣，1989年12月
- 8.『逸脱論の研究』恒星社厚生閣，1990年 4 月
- 9.『シンボリック相互作用論の世界』（船津衛氏との共編）恒星社厚生閣，1995年 9 月
- 10.『シカゴ社会学の研究』（中野正大氏との共編）恒星社厚生閣，1997年11月
- 11.『社会生活のコントロール』恒星社厚生閣，1998年12月
- 12.『逸脱』講座社会学第10巻（編著）東京大学出版会，1999年 8 月
- 13.『シカゴ学派の社会学』（中野正大氏との共編）世界思想社，2003年11月
- 14.『社会病理学の基礎理論』（松下武士，米川茂信氏との共編）学文社，2004年 2 月
- 15.『初期シカゴ学派の世界』（吉原直樹氏との共編）恒星社厚生閣，2004年 3 月
- 16.『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣，2004年 5 月
- 17.『逸脱研究入門——逸脱研究の理論と技法』（森田洋司氏との共編）文化書房博文社，2004年10月

(学術論文)

- 1.「労働者階級における保守的傾向の問題」『ソシオロジ』第51号，51-79頁，1970年 8 月
- 2.「現実『問題』と認識主体——社会学研究のための基礎ノート」『社会科学論集』第 2 号，大阪府立大学社会科学研究会，1-29頁，1971年 3 月
- 3.「青年労働者の目標と阻害——状況圧力の問題」『大阪府立大学紀要』19巻（人文・社会科学編），55-73頁，1971年 3 月
- 4.「危機の診断——K・マンハイムの社会認識」『大阪府立大学紀要』20巻（人文・社会科学編），59-71頁，1972年 3 月
- 5.「逸脱行為の社会学的認識——序説的な覚書」『社会科学論集』3 号，51-71頁，1972年 3 月
- 6.「ラベリング論の検討——その 1」『大阪府立大学紀要』21巻（人文・社会科学編），61-78頁，1973年 3 月

7. 「都市と退行行為」大橋薫・大藪寿一編『都市病理学』有斐閣, 32-46頁, 1973年5月
8. 「逸脱行為の原因論 (etiology) について」『社会科学論集』4-5 合併号, 63-83頁, 1973年5月
9. 「逸脱行動と裁量」岡村久雄編『政治社会学の視点』地球社, 117-166頁, 1976年4月
10. 「逸脱行動と烙印論」中久郎・松本通晴編『現代社会の動態』アカデミア出版会, 151-160頁, 1976年4月
11. 「逸脱行動論の課題について」『新しい社会学のために』9号, 現代社会研究会, 5-18頁, 1976年4月
12. 「青少年の自殺と他者の反応——看護婦の意識調査より」『少年補導』242号, 大阪少年補導協会, 242号, 39-47頁, 1976年5月
13. 「ラベリング論の検討——その2」『大阪府立大学紀要』22巻 (人文・社会科学編), 21-33頁, 1977年3月
14. 「社会的反作用としての刑罰の意義」『犯罪社会学研究』2号, 日本犯罪社会学会, 1-21頁, 1977年10月
15. 「社会生活における相互確認」吉田民人編『社会学』日本評論社, 174-191頁, 1978年5月
16. 「相互作用におけるレイベリングの影響」『社会学評論』第114号, 日本社会学会, 28-40頁, 1978年9月
17. 「逸脱行為の社会学的認識」『現代のエスプリ』No.135, 至文堂, 51-68頁, 1978年10月
18. 「社会病理とはなにか」大橋薫ほか編『社会病理学入門』学文社, 1-12頁, 1978年11月
19. 「シンボリック相互作用論の課題」『季刊労働法』別冊第6号, 総合労働研究所, 83-108頁, 1980年3月
20. 「社会的相互作用と自他のアイデンティフィケーション」『社会学研究』41号, 東北社会学会, 1-32頁, 1982年1月
21. 「社会的相互作用論から見たキャリア分析——『ジャック・ローラー』の解釈の試み」『哲学研究』544号, 京都哲学会, 56-105頁, 1982年4月
22. 「暴力の生成過程」『現代のエスプリ』180号, 至文堂, 62-75頁, 1982年7月
23. 「ポスト・レイベリング論の時代か?——逸脱のドラマの社会生活への影響」『教育社会学研究』第39集, 日本教育社会学会, 5-17頁, 1984年9月
24. 「『相互作用論』のモデル序説——その1」『哲学研究』550号, 500-535頁, 1984年10月
25. 「シンボリック相互作用論」新睦人・中野秀一郎編『社会学のあゆみ——パート2』有斐閣, 82-108頁, 1984年11月
26. 「『相互作用論』のモデル序説——その2」『哲学研究』552号, 21-72頁, 1986年10月
27. 「逸脱の社会的定義をめぐる問題——当事者主義から観察者の役割の復権」『現代の社会病理』日本社会病理学会, 76-106頁, 1986年11月

28. 「ミード——自己論の立場」中久郎編『社会学の基礎理論』世界思想社, 241-258頁, 1987年4月
29. 「レイベリング論から社会的相互作用論へ」新睦人・三沢謙一編『現代アメリカの社会学理論』恒星社厚生閣, 147-175頁, 1988年3月
30. 「組織体犯罪の研究に向けて」『犯罪社会学研究』13号, 12-17頁, 1988年10月
31. 「シカゴ学派のモノグラフの解釈——E. H. サザランドの作品をテキストにして」『社会学史研究』11号, 日本社会学史学会, 1-20頁, 1989年6月
32. 「人間の社会生活について——空間の分節化と逸脱を中心に」江原昭善編『サルはどこまで人間か——新しい人間学の試み』小学館, 171-190頁, 1989年11月
33. 「シンボリック相互作用論」中久郎編『現代社会学の諸理論』世界思想社, 112-138頁, 1990年8月
34. 「医療——医療社会の変貌とその制御過程」塩原勉ほか編『現代日本の生活変動』世界思想社, 139-161頁, 1991年1月
35. 「社会的ルールの成立」木下富雄・棚瀬孝雄編『法の行動科学』福村出版, 1-21頁, 1991年10月
36. 「企業逸脱と社会統制の社会学的研究」『平成3年度科学研究費一般研究(C)研究成果報告書』(研究代表: 宝月誠), 1-51頁, 1992年3月
37. 「社会制御の考え方」『犯罪と非行』93号, 青少年更生福祉センター, 1-20頁, 1992年8月
38. 「診療場面において医師の直面する問題と対処方法」『平成7年度科学研究費一般研究(C)研究成果報告書』(研究代表: 宝月誠), 1-29頁, 1996年3月
39. 「逸脱理論における実証主義支配」北川隆吉・宮島喬編『20世紀社会学理論の検証』有信堂, 137-156頁, 1996年10月
40. 「逸脱化についてのシンボリック相互作用論の視点」『犯罪社会学研究』23号, 4-22頁, 1998年10月
41. 「暴力の社会学」所一彦ほか編『日本の犯罪学』第7巻, 東京大学出版会, 243-250頁, 1998年10月
42. 「自然主義的探究法の再検討——ブルーマーの方法論の問題点」『奈良女子大学社会学会学論集』6号, 177-188頁, 1999年3月
43. 「科学的世界と修行——質的研究法を事例にして」『修行の研究』(平成11年度科学研究費基盤研究(A)研究成果報告書・研究代表: 長谷正當), 27-48頁, 2000年3月
44. 「『物語的社会学』の原点——トマス=ズナニエツキ『ポーランド農民』第三部を中心に」『社会学史研究』21号, 39-48頁, 2000年6月
45. "A Social World of Sociology in Japan" *The American Sociologist*, vol.31. no. 3 : pp. 5-14. (published by Transaction Periodicals Consortium), 2000, Fall
46. 「シカゴ学派の社会認識——社会的世界論の展開」『シカゴ派の総合的研究』(平成12年度科学研究費基盤研究(B)研究成果報告書・研究代表: 中野正大), 27-41頁, 2001年3月
47. 「逸脱行動の生成に関わる諸要因」『京都社会学年報』9号, 京都大学文学部社会学研究室, 1-18頁, 2001年3月

48. 「逸脱行動の統合理論の構築」『平成13年度科学研究費基盤研究（C）研究成果報告書』（研究代表：宝月誠），1-53頁，2002年3月
49. 「食の社会的世界とコントロール」『フォーラム現代社会学』3号，関西社会学会，9-17頁，2004年5月

（翻訳）

1. F. フリードソン『医療と専門家支配』（進藤雄三氏との共訳）恒星社厚生閣，1992年9月
2. J. ロフランド＝L. ロフランド『社会状況の分析』（進藤雄三氏との共訳）恒星社厚生閣，1997年1月
3. G. ラフリー『正統性の喪失』（監訳，訳者 大山小夜・平井順・高橋克己氏）東信堂，2002年7月
4. G. H. ミード『G. H. ミードプラグマティズムの展開』（加藤一己氏との共訳）ミネルヴァ書房，2003年12月

（共同研究）

1. 『婦人一時保護施設入所者の経歴分析＜特集＞』（芦田徹郎・栗岡幹英・神原文子・中河伸俊・田中滋氏との共同調査報告）『ソシオロジ』第84号，社会学研究会，1-141頁，1982年7月
2. 『婦人一時保護施設入所者の経歴分析——第2回調査』（黒田浩一郎・神原文子氏との共同調査報告）『昭和59年度科学研究費一般研究（C）研究成果報告書』，1985年3月
3. 『高度医療と社会関係』（田間泰子・串田秀也・筒井琢磨・藤澤三佳氏との共同研究）『社会人間学研究報告』No. 1，京都大学文学部社会学研究室，1-111頁，1990年3月

（エッセイ 2000年以降）

1. 「シカゴ学派の一段面——ミクロからマクロへ、そして政策へ」『ソシオロジ』第138号，98-99頁，2000年5月
2. 「犯罪社会学——逸脱論」AERA Mook No.70，『犯罪学がわかる』朝日新聞社，106-107頁，2001年6月
3. 「『ソシオロジ』とわたし」『ソシオロジ』第150号，135-140頁，2004年5月
4. 「逸脱をめぐる常識と科学知の間——『逸脱とコントロールの社会学』を刊行して」『書斎の窓』537号，有斐閣，28-31頁，2004年9月